

オピニオン

うゑみなり

投 書 欄

激動のミクロネシア

中島 洋

一九九一年七月刊行の本誌第五一号から十七回にわたって英文ページに転載されてきた「マイクロネシアン・カウンセラー」のシリーズが本号を以て終わる。

最終回を飾るヒーゼル神父の論文は、第二次大戦後にミクロネシアの人びとが経験した革命的ともいえる社会的、経済的、政治的変化によって、ミクロネシアの社会に大きな歪みが生じたことと、それに対して、ヒーゼル神父の主宰する「マイクロネシアン・セミナー」を中心に、米国およびミクロネシアの人類学者が、どのように取り組んだかを十二ページにわたって詳述するもので、会員諸氏に是非ともお読みいただきたいと思う。

旧日本統治領ミクロネシアは、日本の敗戦後は米軍の占領と米国による信託統治に伴うアメリカ文化の急激な流入、貨幣経済化、さらにはテレビを通じての一方的な異文化の奔流のような侵入などによって、社会的な変化

を余儀なくされた。

そして、一つの民族は他民族に異文化を押しつけられるときよりも、自ら好んで異文化を取り入れるときのほうが、自らの文化を失う速度と量が増す。まして、貨幣経済化が進む中では、異文化の取り入れと貨幣収入がリンクされれば、その傾向には拍車がかかる。

自治の拡大、さらには独立が、かえって伝統文化の減少につながるのは、そのような理由によるものである。そして、伝統文化の喪失は、家族生活の変化と、それに伴う社会の大きな歪みを生む。

一九六〇年代以降、次々と独立した太平洋の島嶼諸国に、政治の腐敗や青少年犯罪の急増など、解決すべき諸問題が生じているのも、「独立と発展のための苦痛」ではあるものの、心痛むことである。

過去の十六本の論文にも、改めてお目を通しただければ幸いである。

新 刊

ハワイ・ハンドブック

J・D・ビサイナニ 著

昨年、『ハワイ・ハンドブック』の第四版が出た。すでに一九九〇年に出た第三版が、ハワイ観光局から「ベスト・ガイドブック」の大賞を受けていたが、この第四版も同様に受賞している。

第三版は、索引も含めて八七九ページの大ハンドブックであったが、第四版は一、〇〇四ページとなり、さらに充実している。

世界各地のハンドブックを出版していることと有名なカリフォルニアのムーン・パブリケーションズ社のハンドブックだが、日本的な単なる旅行者用のガイドブックではなく、ハワイの動植物から、歴史、政治、経済まで、幅広く詳細に紹介している。

ムーン・パブリケーションズは、ハワイに關しては、ホノルル／ワイキキ、カウアイ島、マウイ島、ハワイ島（ビッグ・アイランド）の各ハンドブックを出しているが、この『ハワイ・ハンドブック』は、それらを総合したものである。定価は一九・九五ドル。

(中島 洋)

Moon Publications, Inc.

P. O. Box 3040

Chico, CA 95927-3040, USA

Email: travel@moon.com